

山出し苗梱包の改善について

高山営林署 田中武雄
白川富夫

1. はじめに

丹生川種苗事業所は乗鞍山の裾野、丹生川村にあって種苗の管理面積は約7haで、ヒノキを中心に約40万本生産している。

当苗畑では、健全な苗木の生産を前提として春季の床替、山出し作業、夏季には根切虫対策、秋季の堀取り仮植作業等の実行にあたって従事職員のアイデアを生かし、小さな工夫を含めた作業仕組みの改善を推進し、生産性の向上に努力しているところである。

このうち、他署の苗畑も含め従来から人力作業で実行されていた山出し作業について、電気掃除機を利用して実行したところ顕著な成果を得ることが出来たので、その概要を発表する。

2. 目的

当苗畑作業においては、4月から5月が床替作業の最盛期であり、苗木の活着率向上を図るため、床替作業を適期に完了する必要があることから、山出し苗梱包作業の空気抜き作業を、従来の人力作業から電気掃除機を利用した作業仕組みに変更して、

- (1) 作業能率の向上
 - (2) 安全衛生面の改善等
- を目的とした。

3. 内容

(1) 作業仕組みの改善について

- ① 従来の方法では、越冬仮植してある苗木を堀取って、60本単位でポリ袋に詰めて、体重をかけて空気を抜き、口元を輪ゴムで絞めて梱包していた。
- ② 新しい方法では、空気抜きの作業を電気掃除機を利用して空気を抜く方法を取入れて実行してみた。

(2) 作業姿勢について

- ① 作業仕組みを改善することで、かなり強度であった従来の作業姿勢の前屈、屈伸の繰返し

動作から、立った姿勢でできる新しい方法を取り入れることで、腰、膝等への負担を軽減する。

4. 結 果

(1) 作業工程では、〈表-1〉のとおりである。

また、63年度の山出し事業量を、61年度の工程で実行したと仮定すれば、所要労務量は約126人となり、63年度実績95人に対し、31人の労務節減となる。

(2) 経済性については、〈表-2〉のとおりである。

以上の結果、他の因子もあり、数字にこだわることは適当でないが、経済性においても有利なことは確実である。

5. ま と め

以上述べたように

- (1) 山出し作業工程が向上した。
- (2) 経費の節減ができた。
- (3) 安全衛生面での改善ができた。
- (4) 荷姿が小型化された。

このように、家庭用電気掃除機を利用した結果、山出し作業の省力ができ床替作業が適期に完遂できた。

今後も各作業において創意工夫し、作業仕組みの改善を図り、無災害を念頭において生産性の向上、生産コストの低減に努力し、健全な苗木の生産に頑張っていきたい。

表-1 山出し作業工程実績表

各分 年度	各分 本数 ^(体)	所要 人工 ^(人)	1000 ^体 当り 工程 ^(人)	61年との 工程差	作業 能率 ^(%)
s61	502	157	0.31		100
s62	371	84	0.23		
s63	406	95	0.23	0.08	135

表-2 経済性について

(単位 千円)

内 訳	購入費	年間経費
電気掃除機代	0	
コード代	18.6	3.7
電気料金		0.5
計	18.6	4.2
s61/に対しての 労 務 量		△ 31 ^人
労 務 費		△255.9
年間経費の節減		△251.7